

—成人女子におけるわたり量，及び股ぐり線の人体因子—

果立新潟女短大 平沢和子

目的 青年女子の試着実験により、平面製図によるズボンのわたり量は腰部矢状径の80%であると結論した。この結果と腰部矢状切断面とはどのような関係にあるか、又この矢状径が加齢に従いどのように変化するかを調べ、一般に成人女子のわたり量の人体因子として適切かどうか検討し、この計測値を用いたの製図法を考察した。後ズボンの傾斜角の意味するものは人体への適合と機能量とが考えられるが、この両者を分離し、立位正常姿勢における人体に適合する傾斜角と人体因子との関係を考察した。股ぐり線の曲率は適合上重要であるがその根拠を明らかにし、実態を調べた。

方法 1) マルチン式計測器による計測、青年女子19才～21才100名、老年女子65才～75才50名。2) 写真による計測(レオタード着用) 青年50名 3) 腰部矢状切断面(ショーツ、スリットスカート着用) 青年50名 老年2名 4) 試着実験 老年女子ローレル示数17, 21の2名、腰部傾斜角青年最大・平均・最小者3名、腰部矢状切断面の曲率半径青年最大・最小者2名、すべて15項目の計測値を用いた平面製図による。実験布はトワール。

結果 ① わたり量、腰部矢状径の80%は青年平均値18.0, 老年20.5である。腰囲にくらべ老年のわたり量は増加し老年女子の試着結果は良好である。このわたり量は腰部切断面矢状径の87%(平均)に当る。② 正中線上の腰部傾斜角は平均14.9°で5°～28°の広い範囲である。この角度の±を後ズボンの傾斜角とした製図は立位正常姿勢においてよい適合性が得られた。③ 矢状切断面の股部曲線を曲率半径で示すと最大11.5, 最小5.0であり、この両者の差は製図上では大きい。これを参考にした試着実験はよい適合性が見られた。